



編集・発行

2007年4月号

382

カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）

〒730-0016

広島市中区幟町4番42号

TEL (082)221-0621

FAX (082)221-8486

<http://www.nobori-cho-catholic.com>

共同司教司牧チーム

モテートル:

バンガンスベルグ・キレバット神父

チーム司祭:

レクダク・ゲラドウス神父(=ジェリー神父)

「殉教者の血は教会の種子となる」(3)

現代における殉教と復活信仰

澤野耕司神父

イエスは、ユダヤの国指導者たちから見れば、社会を混乱させ、ひいてはローマがユダヤの国を滅ぼすきっかけを作ってしまう「国賊」として、ローマ軍に渡され殺されます。

しかし、それはイエスの側からすれば、神と人々のためにご自分の命を捧げることでありました。イエスの福音の目的は、社会を混乱させたり、国を滅ぼしたりすることではありません。むしろ、福音の教えによって人を復活へと導き、この世の社会や国を神の国に変えることだったのです。イエスはそのために自分の命を捧げました。

キリスト信者として自分の信仰を生きることは、時には社会や人々の間に波風を立て、悪評を買い、時には迫害を受け、殺さ



れるということです。福音の教えにかなわない国や社会にあって、神の力と恵みによって真の平和が生

まれ、神の国が完成に向かうよう、神と人々のために自分のすべてを捧げることです。

今日の日本にあっては、拷問や殉教に至るような迫害はないかもしれませんが。しかし、自分の信仰を守り、社会の中で福音の教えに従って生きることは非常に困難です。地域社会や職場で自分の立場が危うくなり、時には身を切られる思いがすることもあられるでしょう。キリスト信者が「復活を信じる」というときには、そのようなことを受け入れるということです。

もちろん人は誰でも「私は殉教できる」とは言えません。そこまでの信仰と勇気を、誰も自分で持つことは出来ません。殉教は特別のお恵みなのです。しかし、少なくともそうありたいと願いながら生きてゆくの

がキリスト信者であるはずで、必要な恵みはその時に、必要な分だけ与えられます。殉教者を想い、弱い私を助けてくださいと祈りながら、自分の信仰をしっかりと生きたいものです。(つづく)

聖週間のプログラム

- | | | |
|------|----------|---------------|
| 4月5日 | 19:00 | 主の晩餐のミサと御聖体礼拝 |
| 4月6日 | 19:00 | 受難の祭儀と聖体拝領 |
| 4月7日 | 19:00 | 復活の聖なる徹夜祭 |
| 4月8日 | 復活祭 9:30 | 司教ミサ |

澤野神父様が病氣療養のため、一年間休養されます。

その間、バンガンスベルグ神父様とジェリー神父様が共同司牧されます。

皆様のお祈りとご協力をお願いします。

代父、代母のこと、あれこれ

バンガンスベルゲ神父

54年まえに、兵庫県の生野という小さな町に新しく教会が出来た。私は若い助任司祭 29才 として、初めて10人ほどの大人に洗礼を授けるまで、なんとかこぎつけた。「代母さんが必要ですよ」と言いましたら、あるお婆ちゃんがとても驚いて、悩んでいた。「どうしましたか」と聞いたら、お婆ちゃんは言った：「カトリックの洗礼と“大菩薩”とどんな関係がありますでしょうか」。私の発音も悪かったでしょうが、しかし、“代母”とか“代父”とか、いかにカトリックの特殊用語で、一般社会に通用しない言葉であるか、わかりました。以後、何百人もの大人を洗礼まで導いたが、説明しなくても、“代父母”の意味が分かっている人に会ったことがない。説明するには、教会が意図する意味に近い言葉をよく使います：証人とか、案内者とか、保証人とか(これはちょっと厳しすぎるかな)、同伴者とか。そうだ！“信仰の道のりを一緒に歩く同伴者”！これだ。これこそ代父母の存在理由を一番正確に表しています。

ところが、現実はどうでしょうか。

行方不明の信者と連絡方法がないかと思っ
て、洗礼台帳に記入してある代母に尋ねると、ほとんどの場合、なにも分かってこない。その代母いわく：「あー、思い出した。あの時、急に頼まれて、初めて出会う人の洗礼式に代母を務めたが、それ以後はあまり交際が続かなかった」。これは、少し極端の場合でしょう。幸いに、順調に教会に通い続ける信者たちの間では、“代父母”と

“代子”の関係がある程度、生き続けている場合も少しはあります。

では、大人の入信の過程において、代父母の役割は何でしょうか。洗礼式の時の儀式的な務めだけではないですね。やはり、“同伴者”でいてほしい。つまり、入門講座の初めから一緒に勉強と信仰の実践をともに歩むことこそ一番理想的でしょう。入門講座の場で初めて知り合う人とともに歩むのもよろしいですが、そもそも、信者が自分で誘った友人または家族の人と一緒に教える講座に預かって、洗礼まで、および洗礼後も、よき同伴者になることはもっとも望ましい代父母の姿です。

話が多少変わりますが、近い将来の教会には、たくさんの司祭とシスターがいなくなるでしょう。やはり、幟町教会ぐらいの大きい教会には、少なくとも2-3人の信者が求道者に正確にカトリックの教えを教える“知識”と言いましょ
うか、“教育的技術”と言いましょ
うか、それを身につけて、求道者を洗礼まで導くことの出来る、そういう人が必要となります。日本の殉教者の時代、230年間も、それぞれの時代に何人かの平信徒がそれなりの勉強と実習をかさねて、“教え方”として、信仰の骨格を驚くほど正確に伝えていた実績があります。

今のところ、幟町教会には一人だけ、そのつもりで、澤野神父と私が行っている入門講座に何回か参加して、一生懸命にメモ書きしたり、聖書そのたの参考書を勉強したりします。いわゆるキリシタン時代の“教え方”の復活かな

津和野巡礼に参加しませんか

5月3日に「津和野乙女峠まつり」が行われます。巡礼者に思いをさせ、共に歩むため、巡礼と一緒に参加しませんか。

5月2日 19:00 前夜祭(津和野教会)

5月3日 10:30 聖母行列(津和野教会～乙女峠)

12:00 野外ミサ(乙女峠)

「キリシタン殉教の聖地 乙女峠(マリア聖堂)」

マリア聖堂は、昭和26年に津和野カトリック教会岡崎祐次郎神父(ドイツより日本に帰化)が殉教者の霊を慰めるために献身的な努力を重ねて乙女山の中腹、光淋寺跡に建立された聖堂です。キリスト教が厳禁だった明治元年に、政府がキリスト教徒を改宗させるため、信徒の中でも最も深く信仰の道に入った長崎県浦上から送られてきた153人の隠れキリシタンが乙女山の光淋寺(今は無い)に預けられ、津和野藩に日夜残酷苛烈な拷問にかけられて改宗を迫られました。がすすめに応じず、ついに36人が殉教の道を選びました。その際、日本で唯一、聖母マリアが降臨された地といわれています。日本政府の切支丹迫害の措置は全世界から烈しい非難を受け、政府は明治6年切支丹禁制の法を解き、各地に流されていた切支丹信徒を許して故郷に帰すことになりました。ステンドグラスにはその悲しい様子が描かれています。峠でもないのに乙女峠と呼ばれるのは、長崎の原爆で亡くなられた永井隆博士の書かれた本(切支丹殉教史で永井隆博士の絶筆)の名が乙女峠であったので、この名で呼ばれるようになりまし。毎年5月3日に行われる乙女峠祭りには、各地から大勢の信徒が津和野に集まり、若葉の山路に絵巻のような美しい行列がつづき、聖堂前の広場で荘厳な屋外ミサが行われます。この乙女峠はマリア様再現の聖地として、又信徒殉教の聖地として全世界にその名を知られ、カトリック教徒の巡礼地になっています。(津和野町観光協会HP参照)

四旬節黙想会(要約)

肥塚たか司神父指導



3月4日に行われた黙想会でのお話の要約です。今一度思い起こし、御復活への心の準備を...

【なぜ今、「殉教者を想い、自分の信仰を生きる」のか】

- ◇ 殉教を現代に生きる 殉教者に倣い、毎日の生活を緊張感を持って信仰を証しする
- ◇ 殉教者を育てた共同体には、「組」という組織によって社会活動、信徒の養成、宣教活動を行っていた 信徒自らが共同体を守るための現代の課題
- ◇ 殉教者を育んだ家庭には、次の世代への信仰の継承ができていた 教会に子どもがいない、青年が来ないと嘆く前に、親自身が自分の信仰を問いかける
- ◇ 女性の召命と使命 現代の教会も女性の協力が不可欠
- ◇ 情熱と深い霊性を宿した司祭・修道者 現代に求められる司祭・修道者像を見る

【イエスのことばから殉教を考える】

- ◇ ルカ 24・46 - 48、マタイ 10・18 - 19、マルコ 8・34 - 36、ヨハネ 12・24 - 25、マタイ 5・10 - 12

【肥塚神父お薦め資料】

- ◇ 「殉教者を想い、ともに祈る週間 ペト口岐部と187殉教者の列福に向けて」(日本カトリック司教協議会 殉教者列福調査特別委員会編) 配布済み
- ◇ 「キリストの証し人」「続・キリストの証し人」F・チースリク著(聖母の騎士社) 聖パウロ書院にて発売中

シリーズ・コラムの

テーマは「平和」!!

テーマを決めて、皆様の率直な意見を交換するシリーズ・コラムの欄を設けています。ただいまのテーマは「平和」。平和の使徒として、私たちの素直な思いをお寄せください。原稿は受付に提出をお願いします。

「平和」という言葉は大きく私自身にのしかかってきて、何をしたいかわからない、何も出来ない、だからこの言葉から逃げてきた自分がいます。

しかし、私は日々雨風をしのぎ、空腹を感じることなく生活し生きています。

「なぜ生きているの?」と問いかける中で、「何のために?」と自分に問いかけると、「誰かのために」と答えが返ってくる。そうなんです、ひとりで生きているのではないのです、と感じさせられます。やはりひとりではないから生きていられる。そして、ささやかに平和を感じながら生きている。神様から与えられた今を生き抜くこと。何かの壁に当たったとき、神様からの教えがここにあるのかなと感じ、時の流れを感じ取りながら、その答えが返ってくるのを待つ日々。その答えを得ることが出来たとき、また一つ「平和の心」を持つことができる。そのささやかに平和を感じることも大切なんです、と感じさせられています。未熟な私を導き、教えをいただけることに感謝いたします。

ペンネーム このみ

運営委員会からのお知らせ

4月11日～13日の上五島巡礼は延期になりました。

各部会の2006年度活動報告は4月末日までに運営委員長に提出してください。

信徒総会は5月13日です。

日曜学校スケジュール

4月15日(日) 入学式・始業式

22日(日) 各クラス授業

5月13日(日) 各クラス授業

27日(日) 堅信式

- ・入学希望の方は、各クラス担当リーダーまでよろしくをお願いします。
- ・堅信の勉強会を4月22日、5月13日・20日に行います。中学生で堅信を受けたい方は、申込願書を4月中にリーダー宛に提出してください。



お薦め書籍 『信教の自由と政教分離』

日本カトリック司教協議会 社会司教委員会
カトリック中央協議会 630円(税込み)
平和の鐘3月号で抜粋掲載した「信教の自由と政教分離に関する司教団メッセージ」の全文と黙想会で肥塚神父様が手にされていた小冊子『「国是」と迫害～歴史上よりの再考察～』が収録されています。
司教団メッセージの解説として、また、「殉教者を想い、自分の信仰を生きる」ためのテキストとして最適です。